

本校の活動状況報告及び 教育点検システムの点検結果報告書(平成 25 年度)

○ 点検手順と日程

点 検 内 容	日 程
1. 平成25年度運営委員会の構成メンバー等に、各担当部署の現時点までの活動状況について報告書の提出を依頼	2/13(木)運営委員会で 予告 2/21(金)依頼 3/24(月)〆切
2. 提出された報告書に対し、本校全体の活動状況を主体に、校長および総合企画室長(自己評価 WG 委員長)が各担当部署の年度末までの活動状況について加筆および修正	5/7〆切
3. 提出された全部署の活動状況報告書(案)をまとめ、他の部署の記載内容も参考に、実施状況の追記や評価の再確認、未記入欄や誤字脱字など、必要な修正を実施	
4. 自己評価委員から提出されたコメントをもとに、総合企画室長(自己評価 WG 委員長)が総括の原案を作成し、自己評価 WG メンバーに送付	6 月 17 日送付
5. 自己評価 WG において、本校の活動状況ならびに教育点検システムが機能しているかどうかについて総括の検討	6 月 25 日自己評価 WG
6. 活動状況報告ならびにシステムの点検結果報告書をまとめ、公表	7 月 10 日運営委員会

○ 総 括

本校は、平成21年度に第2期中期計画が定められ、この中期計画をベースに、前年度の課題を次年度の Plan に加え、それを実現すべく Do、Check、Action を行うこととしたことにより、点検・評価の指標を明確としてきた。

次ページ以降に、運営委員会を構成する各部署等から提出された平成25年度における活動状況報告を示す。ここには、各部署の責任者が、自身が関与する項目に対して、PLAN(年度当初の活動方針・活動計画)、DO(実際に行った活動)、CHECK(活動のチェック)、ACTION(チェックをした結果の対応)、ならびに PDCA の点検結果(PDCA サイクルが機能しているかどうか)について自己評価した結果が、その理由とともに示されている。なおそれら(部署ごとの報告書)の前に、本校の第2期中期計画に沿い、全体の活動状況としてまとめ直したものを掲載する。

各部署において判断した PDCA の点検結果では、教育点検システムが「機能している」と判断したのは 21 部署中 19 部署、「ある程度機能している」が 2 部署となり、平成 24 年度より「機能している」と判断した部署がやや多い結果となり、各部署における PDCA サイクルは安定して機能している状況が窺われる。この結果により、本校全体の PDCA サイクルは安定して機能していると判断できる。

本校全体の活動状況は、177 の評価項目中、S(年度計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である)は 13 項目(17%)、A(順調に進捗している)は 144 項目(81%)、B(やや遅れている)は 18 項目(10%)、C(大幅に遅れている)は 1 項目(1%)となっている。平成24年度と比較すると S が 15%から 17%へとやや増加、A が 71%から 81%へと大幅に増加している。さらに B が9%から 10%へとやや増

加しているものの、Cは5%から1%へと大幅に減少している。このことは、各部署における活動において、昨年度にみられた達成状況の2極化が改善され、全体として達成度が改善されているように考えられる。

平成25年度は、全国高専ロボコンの優勝に代表されるように、全国的な競技会やコンテストにおける学生達の活躍が目立った年であった。他にも香港VTCの短期・中期留学生の受入など国際交流の活性化などが達成度の顕著であった項目としてあげられる。一方、高専・技科大との人事交流、外部資金の獲得を含めた研究活動に関しては、やや遅れが目立っている。特に、研究活動については、専攻科で「教育の実施状況等の審査」の受審にあたり、教員の研究成果の不足が反省として上げられており、学校全体として研究活動を活性化し、それを基盤として外部資金の獲得を増やすための方策を緊急に検討する必要がある。

本校の第2期中期計画は平成25年度をもって終了する。今後、国際社会の動向も踏まえた大局的な見地から、日本の技術者教育の一端を担う本校全体の活性化に向け、学科の再編・コース制の導入等も視野に入れつつ、創設以来40年間続いた教育課程をさらに発展させるために必要なPLANを立て、第3期中期計画を策定しなければならない。さらに、そのPLANを実現すべくDO、CHECK、ACTIONを強化し、本校の教育・研究の特徴を活かしながら、その特徴を磨き、向上させ、広報活動にもさらなる工夫を加え、人口減少時代においても優れた入学者を確保し、継続的發展を支える技術者を養成するための努力を継続する必要がある。

平成26年6月

自己評価WG